

実例で学ぶ！ドラッカーで苦境を跳ね返せ(第1回)

トップマネジメント編 弱みを認め指揮を委ねる

2015.10.26

ドラッカーの経営書を題材にした小説がベストセラーになり、漫画やアニメ、さらに映画にもなったことは記憶に新しい。いまや日本の老若男女の多くが、「ピーター・ドラッカー＝経営の指南者」という認識を持っているといっても過言ではない。

企業の経営者にドラッカーの教えを広めるドラッカー学会の理事を務め、著作で経営を学ぶ読書会も開催している佐藤等氏に、ドラッカーの理論を実際に経営に生かすポイントを解説してもらった。

実践例を学ぶ際に念頭に置く3つのポイント

ドラッカーの教えは学ぶだけでは意味がない。マネジメントは「実践」だとドラッカーは言っている。ドラッカーを学び、すでに経営に生かしている経営者が全国にたくさんいる。その成果を学ぶことで、ドラッカー経営の実践法が理解できるはずだ。

先達の実践例の前に、ドラッカーの主要著作をすべて翻訳し、「日本におけるドラッカーの分身」ともいわれている、ものづくり大学名誉教授の上田惇生氏のドラッカーの思想を経営に生かす3つの重要ポイントを紹介する。

1. 抽象的な問いに実践で答え、具体化する
2. 利益とは手段であり、目的ではないと肝に銘じる
3. 消費者であり労働者である個人の幸福追求を最優先する

以上の3つを念頭において、先輩の取り組みに学びたい

ドラッカーに学んだ先輩企業(1)【宮脇グループホールディングス】

●ドラッカーの言葉

「あらゆる事業において、(中略)最も重要な仕事はトップマネジメントの仕事である。その範囲、必要とされるスキルと気質、仕事の種類において、トップマネジメントの仕事は一個人の能力を超える。(中略)優れた経営を行っている企業にワンマンはいない」

(『現代の経営』〈上〉)… 続きを読む